

このまちに住み続けたいからみんなの力で変えましょう

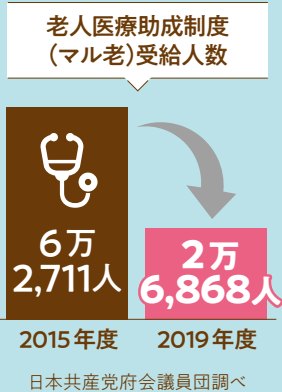
ご存知でしたか？

こんな京都でいいのでしょうか

1 高齢者医療

医療費助成 4割に激減

75歳以上の窓口2割負担(10月から実施予定)により、高齢者の受診控えが懸念されています。京都独自の医療費助成制度(マル老)は、国の改悪にあわせて対象が狭められ、利用者も助成額も激減。所得要件の見直しなどで、「使える制度」に改善すべきです。



2 地域経済

非正規雇用 ワースト2位

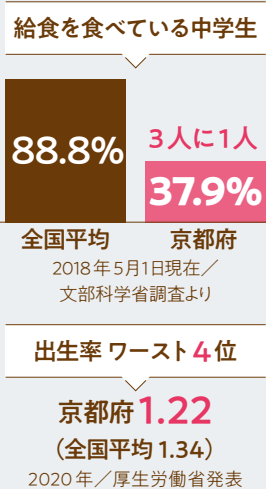
コロナ禍からの回復へ、中小企業支援と一体に賃金を引き上げ、暮らしを底上げすることが重要です。労働組合の働きかけで、府議会でも全会一致の意見書が採択されました。すべての事業者に届く直接支援が必要です。



3 子育て日本一?

中学校給食 ワースト1位

高校の制服や教材費もたいへんなのに、さらに7万円のタブレット。とんでもありません。子育てに冷たい政治を変えましょう。子どもの医療費の1,500円負担は、わずかな予算でなくせます。すぐに決断すべきです。



4 憲法・平和

米軍・自衛隊 施設34ヶ所

「重要土地調査法」で住民監視

岸田政権が「9条改憲」「敵基地攻撃能力」など公言するなか、京丹後市経ヶ岬に置かれた米軍レーダー基地の危険性がいよいよはっきりしてきました。府内各地の自衛隊基地でも、日米一体となった激しい訓練が行われています。京都を舞台にした戦争準備は許せません。



5 気候危機

舞鶴石炭火電 CO2 排出 年間1082万トン

気候ネットワーク調べ

日本全体の1%

気候危機の打開へ、舞鶴火電は稼働中止。危険な原発も止めましょう。「地産地消」の再生可能エネルギーは、新しい産業と雇用を生み出します。「京都議定書」で地球温暖化対策を発信した京都から、社会システムの改革を進めましょう。



運動と結んだ論戦で実現してきました

学生支援

生活物資配布を予算化

議会のたびに支援を求め、学生団体も要請するなかで、大学やNPOが行う支援の費用を府が補助する予算が実現。専門学校にも対象が広がり、喜ばれています。



年末までに、131回の食料支援プロジェクトで約1万2千人に物資を配布してきました。行政が支援に乗り出したことは大きな一歩です。引き続き、すべての学生に届く支援を求めていきます。

民青同盟京都府委員長・寺島拓人さん

米価暴落対策

緊急の補正予算1億円

「このままでは米作りが続けられない」などの実態を示して対策を求め、9月議会では全会一致の意見書を採択。緊急対策事業が追加で提案されました。



京都府への要請や議会請願に取り組んできたことが実りました。独自の支援策を打ち出す自治体も広がっています。食料と農業に責任を持つ政治を求めて、引き続きがんばります。

農民組合京都府連合会書記長・安田政教さん

ジェンダー平等

学校トイレに生理用品を

コロナ禍が女性を直撃し、「生理の貧困」が社会問題に。「生理用品を学校トイレに」の運動が広がり、学校や自治体の判断で設置する動きが広がっています。引き続き、すべての学校での設置をめざします。

「保健室にあるから取りに来て」ではハードルが高いし、保健室が閉まっている時もあるんです。中学校のトイレへ増田直子さん の配置で、相談しなくても使えるようになって喜んでます。

